

特集 医師・看護師 大激変!

沼田るり子さん(右)らハンガリー国立医学部卒業生たちは、初期研修医としてのスタートを切った



DW

勉強部屋を無償で提供、同病院の医師も試験勉強に協力した。医師不足に悩まされる中で「うちを初期研修先に選んでもらいたい、願わくばこの地で医療を続けてくれれば」という期待もあった。

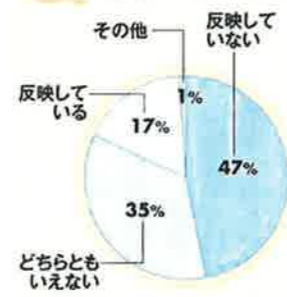
脳外科は3K扱い 患者のQOLよりまず自分のQOL

日本では医学部に入学することは受験競争の勝ち組を意味する。しかし「数学オリンピックの金メダリストなど最高に優秀な学生が医学部ばかりに入るのはいままでの頭脳が必要だろうか。そんな疑問を呈するのは、理学部から医学部に転向した病理医の榎木英介・近畿大学医学部病理学教室講師だ。

偏差値エリートの中には、実は医師という仕事に興味がないという者も居る。医学部に入ったのは、偏差値に見合っていたから燃え尽きて入学後の授業に身が入らない学生が少なくない。

「いと榎木氏は指摘する。紆余曲折を経た転向組の方が、総じて医師の仕事に対する覚悟は強かったりする。一度入学すると医学部生は進路変更がしにくいため、よほどのことがなければ医の道へ進む。しかも大学側も大学の評判に関わる国試合格率を上げようと、国試予備校化する傾向にある(アンケート参照)。

国試合格率は各大学医学部の教育水準を反映している?



A 「反映していない」が5割

【主なコメント】「教育水準というよりも、医師国家試験予備校のようになってしまっている大学の傾向を反映している」「国試合格率が高い大学でも、臨床の場に来ると聴診器も扱えないような医師がたくさん居る」*有効回答数1794。MDピア調査

医師の偏在を解消するために、大学は地域枠(48%参照)を増やし、別の方策として、専門医の登録人数を都道府県別に制限しようという議論もある。しかしそれだけでは、根本的な解決にはならない。本当に医師を志す者に門戸を開放して、大学が治療を行うための実学の教育を高め、また地域医療への意識を高める教育内容を再構築しなければ、頼れる医師は減少の一途をたどる。

ハンガリー留学組が国試合格 歪んだ偏差値至上主義に一石

医学部に入学できるのは一握りの偏差値エリートに限られる。受験で挫折したハンガリー留学生たちが3月、医師国家試験に初めて合格した。本当に医師に向いているのはどちらなのか。

第108回医師国家試験

の合格発表された3月18日、一つの審判が下された。

ハンガリー医科大学留学は詐欺ではないのか。インターネット上の掲示板などではこの数年、医師希望者の中でハンガリー留学の話題が盛んに取り上げられてきた。「国試受験資格は与えられず、日本では医師になれない」と断じる声もあり、大学や日本人留学生を支援するハンガリー医科事務局(HMU)、時に留学生までも誹謗中傷を受けた。

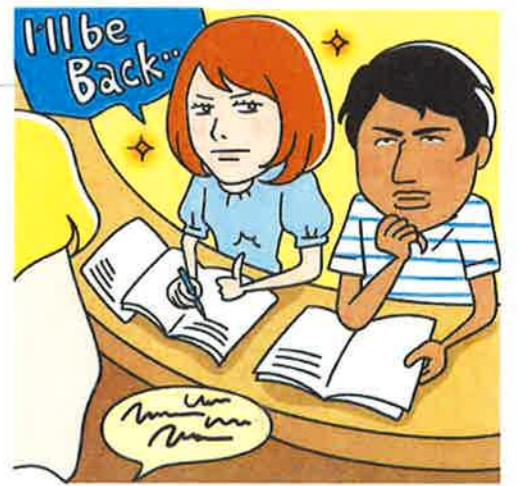
海外医学部の卒業生が日本の医師国家試験の受験資格を持つかは確かにあいまいだ。卒業後に国試受験申請をしてから受験資格の有無を個別に審査されるため、6年かけて卒業したところで、受験不可を告げられることもある。こうした不確定要因を排除するために、HMUは厚生労働省に現地大学の教育課程が基準をクリア

ハンガリーは門戸が広い

1-10 国内医学部とハンガリー医科大学の比較

Table comparing Japanese medical departments and Hungarian medical universities across categories like '入学の難易度' (Difficulty of admission), '学費・生活費の総額' (Total tuition and living expenses), and '卒業後の見込み' (Outlook after graduation).

していることを確認した上で日本人学生の募集を開始、2006年に1期生が入学した。国試受験資格は個別に審査されることに変わりはないため、ハンガリー留学の正当性を証明するには1期生の結果を待つしかなかった。昨年6月にハンガリー国立大学医学部を卒業した日本人1期生7人のうち、6人が日本で今回の国試受験を希望して全員が受験。4人が合格を果たした。



日本の医学部は入試難度が異常なほど高いのに対し、ハンガリーは門戸が広い。現地に渡る前に日本での書類、英語、面接による審査が行われるが、日本の国立大学工学部に入学できるレベルの学力があれば問題ない(表1-10参照)。

卒業後は、卒業生数人と茨城県にある筑波記念病院で国試対策に徹した。「海外に飛び込んで奮闘してきた学生に病院を活性化してほしいから」とサポートを引き受けた同病院の小関暎子理事長は寮や